

## 簡単操作で歩行補助！

8月6日（月）松陽会 演芸友の会様から、利根町社会福祉協議会へシルバーカー2台の寄贈があり、贈呈式が行われました。

くるくる回る車輪は、操作性を向上させて押し心地はバツグン！また、コンパクトに折りたためることもできるので、収納にも困らないという優れ物。社会福祉協議会に来られた際は、一度お試しになってみてはいかがでしょうか。また同会は、「平成30年7月豪雨災害」に対しての義援金にもご協力いただきました。



▲松陽会 演芸友の会の方々

## 地域社会の福祉のために！

贈呈式に出席された加藤さん（左）、滝山さん（中央）、佐々木町長（右）

8月31日（金）千葉県ヤクルト販売株式会社様から、利根町社会福祉協議会へ車いす1台の寄贈があり、贈呈式が行われました。

ヤクルト福祉活動の一環でもあります「社会福祉に役立つものの寄贈」ということで、ご寄贈いただいたこの車いすは、対象商品をご購入いただいた代金の一部と、千葉県ヤクルト販売株式会社にお勤めの方々による募金により、購入・ご寄贈していただきました。高齢者やからだの不自由な方々の生活支援、福祉教育などに有効に活用させていただきます。

## 自分の町をきれいに！ポイ捨て禁止！



▶35度を超える猛暑の中、ご協力ありがとうございました！

霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦は、霞ヶ浦に流入する河川流域の市町村が一体となり霞ヶ浦の浄化を推進していこうという運動です。

町では8月26日（日）、新利根川沿いの8地区（羽根野・上曾根・押付新田・押付本田・下井・立木・立崎・惣新田）の住民の皆さまに、暑い中汗を流しながらごみ拾いにご協力いただき、たくさんのごみを収集することができました。

残念ながら未だにゴミのポイ捨てが後を絶ちません。身近な新利根川をきれいにすることが、霞ヶ浦の浄化に繋がります。美しい自然環境を守るために、これからも町民の皆さまのご協力をお願いいたします。

## 交通死亡事故ゼロ更新中！ 目指せ！全国1位！



▶早めの点灯で事故防止！

町は現在、交通死亡事故ゼロ日数を継続中で、10月1日現在で連続3,296日を達成しています。

この記録は、茨城県内で1位の記録であり、現在もさらに記録を更新しています。

当町では、県内1位の記録を維持し続けられるよう、そして全国1位を目標に、交通安全啓発の一環として、茨城県内でもいち早く、公用車の昼間におけるヘッドライト点灯を実施しています。

住民の皆さまも、安全運転の観点から昼間におけるヘッドライトの点灯を実施してはいかがでしょうか



▶▶町内を走る車1台1台に交通安全啓発グッズを渡し、安全運転をお願いしています。一人一人が交通ルールを守り、思いやりのある運転を心掛けましょう！



## 一面黄金色に！さあ収穫だ！ 町内小学校稲刈り体験

撮影：文間小学校



**田植えから早4ヶ月！**  
今年の夏は例年に比べ、猛暑日の多い年となりました。その暑さの中でも稲はすくすくと成長し、稲刈り時期の9月には、青々しかった田園風景をきれいな黄金色へと変化させ、収穫の時期を知らせるかのような景色となりました。

この日、文間小学校の5年生計35名の児童が、初めて持つであろう稲刈りがまを手手に一列に並び、先生の合図を今か今かと待ちわびていました。そして、先生の合図とともに、一斉に稲に駆け寄り刈り始めました。

最初の数分は、慣れない稲刈りがまに悪戦苦闘していましたが、10分もしない内に、次々と稲を刈っては積んでを繰り返し気が付けば、山盛りに積まれた稲の山が並びました。手作業でも大人数でやると、ものすごいスピードで刈られていき、その様子は、コンバインにも負けないくらいでした。

**先生も予想外だった？！**  
先生の合図で始まった稲刈りも、20分程経過した時には、すでに先生の予想していた範囲を刈り終えてしまい、先生自身とても驚いていました。予想以上のスピードだったため、刈る場所を追加しましたが、それでもみるみるうちに稲は刈り取られていき、1時間もしないうちにきれいに刈り終わりました。

参加した児童に話を聞くと、「余裕」。サクサク切れるじゃん！」や「簡単、簡単！」と、取りたての稲を片手に持って元気いっぱい話す児童もいれば、「なかなか切れなかった。難しい。」と稲刈りの難しさを体験できた児童もいました。

現在は機械化も進み、当たり前となったコンバインでの稲刈りも、昔は人の手で刈っていた時代があ



山盛りになった稲。大収穫だね！



1. 稲刈りがまの使い方・危険性などを丁寧に教えてくれました。（JA 竜ヶ崎市営農経済センターの石橋センター長） 2～3. 慣れない稲刈りがまにも次第に慣れてきた様子 4～5. 刈った稲を持って、ニコリ笑顔！ 6～7. ラストスパート。みんなで刈るぞ～！

りました。実際に経験することで、働くことの苦労や収穫の喜びを実感し、自然の恵みに感謝する心を育成することができたと思います。また、今回刈った稲は、実際に学校の給食として配膳され、田植えから稲刈り、そして自分で作ったお米を食べるとい、生産から消費までの一連の流れを学習することができました。

今回の稲刈り体験学習は、文小学校・布川小学校も同月に行っており、各小学校の児童は、貴重な体験をすることができました。